

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(5月20日～5月26日)

2024年5月31日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領は、ライースィ・イラン大統領らの事故死に寄せた弔意を表明(5月20日)
- アレイニク外務大臣の故ライースィ・イラン大統領らの葬儀への参列(5月22日)
- プーチン露大統領の来訪(5月23日、24日)
- ベラルーシ・露国防大臣会談(5月24日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ライースィ・イラン大統領らの事故死に寄せた弔意の表明

・ルカシェンコ大統領はハメネイ・イラン最高指導者に対し、ライースィ・イラン大統領ら同国の複数の最高指導者の悲劇的な死に関し弔意を表明。ルカシェンコ大統領は、ベラルーシではこの知らせが深い悲しみをもって受け止められている旨強調。

・ルカシェンコ大統領は、「ライースィ大統領閣下との会見や会談を、最も温かな記憶としていつまでも保持する。ライースィ大統領は、ベラルーシの真の友であり、ベラルーシ・イラン二国間の協力の進展を大いに気遣っていた。その名は両国関係史に永遠に刻まれることになる」と述べた。

(5月20日 大統領府)

●プーチン露大統領の来訪

(1)ベラルーシ・露首脳会談

5月23日

・ミンスク空港で首脳会談を実施。

・ルカシェンコ大統領は、24日の首脳会談において、安全保障、経済、中国を念頭に置いた両国関係等を協議する旨強調。

・プーチン露大統領は、ベラルーシが安全保障というテーマに大いに注目していると指摘した上で、本件が戦術核兵器の使用に関する演習にベラルーシ軍も参加することと関連がある旨強調。

5月24日

・両国の関係閣僚が多数同席する拡大形式での会談を実施。

・ルカシェンコ大統領は、①ベラルーシ・ロシア両国共同輸入代替プロジェクト実施に向けた具体的な作業、②両国間での貿易障壁の撤廃、③ベラルーシへの石油・ガス供給の情景の最終合意に言及。

・プーチン露大統領は、両国の最重要事項として、高度技術分野における優先事項の絞り込みと相互支援に言及。

・また、プーチン露大統領は、二国間協力における国防と安全保障の重視を改めて強調。

(2)首脳会談後の記者会見

・ルカシェンコ大統領は、会談では基本的に経済面での問題に時間を割いた旨強調。ベラルーシ・ロシア連合国家統一産業政策の策定に関する問題が協議されたとした上で、残存する保護措置や制限を撤廃する必要に改めて言及。

・プーチン露大統領は、ベラルーシに対する優遇条件での石油・ガスの供給と、ベラルーシによる自国向け原子力開発の支援及び関連分野における協力を継続する旨発言。

戦術核兵器の演習に関して

・ルカシェンコ大統領は、ベラルーシは誰かを攻撃することなど望んでおらず、情勢を緊迫化させてなどいないこと、我々がやっていることは全て西側がやってきたこと、世界は不安定で危険であり、自国を守るために装備品を活用できなければならないことを強調。

・プーチン露大統領は、ロシアはベラルーシの安全保障に、ロシアと全く同じように対応していること、ロシアは核兵器の分野における国際的な義務を完全に遵守しており、北大西洋条約機構(NATO)ブロックの活動と比べても何ら異常なことはない。

(5月23日、24日 大統領府)

【外交】

●外務省によるライースィ・イラン大統領らの事故死に寄せた弔意の表明

・我々はイランからの最新のニュースを、大いなる悲痛とともに受け止めている。

・これはイラン社会にとって取り返しのつかない損失であるだけでなく、ベラルーシの真の友人たちが他界したということでもある。

・犠牲者の親族や近親者に心から哀悼の意を表するとともに、イラン国民全体に不屈さと勇気を祈念する。

(5月20日 外務省「X」)

●アレイニク外務大臣の故ライースィ・イラン大統領らの葬儀への参列

・5月22日、アレイニク外務大臣は、ベラルーシ大統領の指示を受け、テヘランにおいて故ライースィ・イラン大統領、故アブドラヒアン・イラン外務大臣らの葬儀に参列。

・アレイニク外務大臣は、マンスーリ副大統領、ジウムシーディ大統領室政務担当副室長、バーゲリキャニ外務大臣代行と短く言葉を交わし、ベラルーシ大統領及びベラルーシ国民からの弔意を伝達。連帯と、イラン国民が尊厳をもって自らに降りかかった試練を切り抜けるとの確信が言い表された。

・イラン側からはベラルーシ大統領に対し、励ましと両国関係進展への志向に変わりがないことへの謝意が表明された。

・一方、5月21日から23日にかけて、当地イラン大使館は故ライースィ・イラン大統領らの訃報を踏まえ、弔問記帳を受け付け。

(5月21日 国営ベルタ通信、22日 外務省)

●英国はベラルーシからのアルミニウム等の輸入を禁止

・英国は、5月16日以降、ベラルーシからのアルミニウムの他、電子機器や航空宇宙機器等重要産業に関する商品や機材の輸入を禁止。

(5月21日 英国政府、「ゼルカロ(鏡)」)

【内政】

●捜査委員会は、「調整評議会」選挙の参加者 257名全員を刑事事件で起訴

・対象者は、国家権力奪取を目的とした陰謀、対ベラルーシ制裁の呼びかけ、過激主義団体の設立及びその活動の幫助等で起訴されている。

・対象者がベラルーシ国内で保有する不動産や財産の検分・捜査・差し押さえ等を含めた措置が講じられている。

(5月21日 捜査委員会)

●輸入・販売禁止リストへの項目の追加

・新しく追加された項目には、ラトビア、リトアニア、ポーランド、チェコ、エストニアの特定の商品(ビール、化粧品及び衛生用品、消臭剤、入浴剤や石けん、洗剤等)が含まれる。

・いわゆる「非友好国」からのミネラルウォーターや炭酸水を含む水の輸入や販売も禁止されている。

(5月21日 法律ポータル、ポジルク)

●テロ計画の疑いでタジキスタン人を逮捕

・シャハルチュク内務省報道官は、タジキスタンでテロを計画していた容疑でタジキスタン人 2 人を逮捕し、同国に引き渡した旨述べた。

(5月24日 露「リア・ノーヴォスチ」、国営ベルタ通信)

●5月25日現在の政治犯の数は 1,401 人

(5月25日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ンスエ赤道ギニア国防大臣の来訪

・フレニン国防大臣と会談。両国の軍事協力の発展の見通しにつき協議。

・両大臣は、会談後戦勝記念碑に献花。

(5月22日 国営ベルタ通信)

●ベラルーシ・露国防大臣会談

・ベロウソフ露国防大臣がベラルーシに来訪し、フレニン国防大臣が自ら出迎え。

・フレニン国防大臣は、今次会談につき、「ベラルーシ

とロシアの間の兄弟としての強い結びつきと戦略的パートナーシップを改めて裏付けるもの。

(5月24日 国防省)

【治安・犯罪】

●ベラルーシから周辺国へのたばこの密輸の摘発

- ・ポーランド税関は同国北東部アウグストウフにおいて、ベラルーシ製たばこを密輸していた乗用車を摘発。
- ・密輸たばこ1,223箱(5万ズロチ(約5,100ドル)相当)を押収。

(5月20日「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(5月13日～5月19日)

- ・リトアニア国境警備局は少なくとも13人を阻止。
- ・ラトビア国境警備隊は少なくとも147人を阻止。
- ・ポーランド国境警備隊は少なくとも1320人を阻止。

(5月14日～5月20日 ポジルク)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

- ・5月20日、スウェーデンを訪問。クリステンション首相らと会談。チハノフスカヤ氏は、ベラルーシの市民社会と独立系メディアの支援、政治犯の問題等につき言及。
- ・21日から22日にかけて、ベラルーシに関するストックホルム会議を開催し、演説。
- ・23日から25日にかけて、プラハにて、政治犯に関する会議「#WithoutJustCause」を開催し、演説。

(5月28日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)